

危機に対応する中東地域研究 9.11事件から20年、 「アラブの春」から10年、 コロナ危機から1年

日時：2021年5月15日(土) 13:00~15:50

会場：Zoomウェビナー



QRコードより事前登録をお願いいたします
https://us02web.zoom.us/join/register/WN_YTiYoCdmRSKo5wmlIGwEdQ

現代の中東では、およそ10年を区切りにそれまでの秩序を大きく揺さぶるような危機が起こってきた。21世紀に入ってからも、2001年の9.11事件、2011年の「アラブの春」、そして、2020年から今日まで続くコロナ危機によって、中東各国の政治や社会のあり方のみならず、中東という地域の国際社会における位置づけや役割も変化を余儀なくされてきた。

こうした危機は、必然的に中東地域研究のあり方に見直しを迫ることとなったが、それと同時に、新たな現実を捉えるための学知を生み出すことを促進してきた。学際性を強みとしてきた中東地域研究は、歴史学、宗教学、人類学、政治学、国際関係学などの知見を融合・再編するカタチで、中東という地域の動態を掴むことを求められてきた。

本公開講演会では、9.11事件、「アラブの春」、コロナ危機からそれぞれの20年、10年、1年の節目となる今年2021年において、これらの危機によって生まれた新たな現実とは何であったか、それに対応するために中東地域研究はどのようにアップデート/アップグレードをしてきたのか、そして、どのような課題が残されているのかについて、考えてみたい。そして、この作業を通して、中東地域研究が日本における中東理解に貢献してきたことをあらためて確認し、社会に向けて発信したい。

プログラム

司会：鳥山純子(立命館大学)

13:00~13:05 開会挨拶：末近浩太(立命館大学/大会実行委員長)

13:05~13:35 報告者1：保坂修司(日本エネルギー経済研究所)
「9.11事件から20年—日本にとって9.11事件とは何だったのか?」

13:35~14:05 報告者2：横田貴之(明治大学)
「「アラブの春」から10年—中東政治と中東政治研究の現在」

14:05~14:35 報告者3：黒木英充(東京外国語大学)
「コロナ危機から1年、スペイン風邪から100年—COVID-19の先の中東と中東研究」

14:35~14:50 休憩

14:50~15:05 討論者1：今井宏平(日本貿易振興機構アジア経済研究所)

15:05~15:20 討論者2：酒井啓子(千葉大学)

15:20~15:50 全体討論

鳥山純子

末近浩太

保坂修司

横田貴之

黒木英充

今井宏平

酒井啓子

